



LRI 事務局

## 日化協 新 LRI 第 2 回研究報告会

新 LRI (Long-range Research Initiative) として新たなスタートを切って 1 年が経ちました。研究成果を紹介し、今後の方向性や課題を会員企業の皆様と共有するための機会として、8 月 30 日、ベルサール八重洲において研究報告会を開催しました。

今回の研究報告会は、技術的な側面だけではなく、一般の皆様にも興味を持っていただける内容にするため、3 部構成で行っております。

午前の部は、最先端の技術や、化学業界が直視すべき課題をわかりやすく紹介していただく構成としました。ポスターセッションは、研究者と来場者が実際にディスカッションをしていただき、理解を深めていただくことを目的としました。そして、午後の部は新しい評価手法、特に in silico に焦点を当て、技術者の皆様に新 LRI の具体的な成果を紹介する内容で構成しました。

### 午前の部

#### (特別講演 1)

#### 「ヒト iPS 細胞由来肝細胞の創出と毒性評価への応用」



水口教授

昨年、ノーベル賞受賞で話題になった iPS 細胞ですが、現在、再生医療への実用化に向けた取り組みが進められています。それ以外にも、疾患のメカニズム解明や化合物の毒性評価、薬効評価研究等への応用が期待され、LRI としても非常に注目している技術です。今回は肝細胞への分化

誘導技術で大きな成果を上げられた、大阪大学大学院薬学研究所の水口裕之教授をお招きして、分化誘導技術の現状と今後の見通し、および毒性試験への応用の可能性などについてご講演をいただきました。注目度の高い研究ということもあり、会場では熱心な質疑のやり取りがありました。

#### (特別講演 2)

#### 「生活の言葉でリスクを伝える化学物質 すれ違いの背景は？」



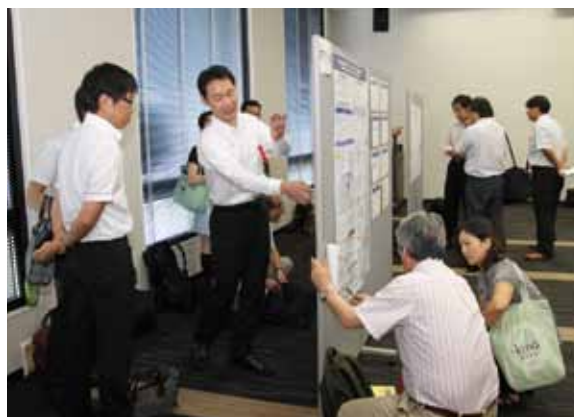
小出氏

LRI 顧問会議の委員をお願いしている科学ジャーナリストの小出重幸氏に、我々とは異なる目線で見ると、化学物質に関する様々な情報の伝わり方の問題点を講演していただきました。環境ホルモン問題や、身の回りの製品の宣伝文句等を例に、消費者に対するコミュニケーションの大切さをわかりやすく解説していただくと同時に、必要な情報を「コメント」ではなく「メッセージ」として発信していくことの重要性をご指摘いただきました。

環境ホルモンの問題や、身の回りの製品の宣伝文句等を例に、消費者に対するコミュニケーションの大切さをわかりやすく解説していただくと同時に、必要な情報を「コメント」ではなく「メッセージ」として発信していくことの重要性をご指摘いただきました。

## ポスターセッション

現在採択されている14課題について、現状と課題をポスターセッションで報告しました。来場者からは、学会とは違った雰囲気、実際の研究者とディスカッションがしやすいという感想をいただいております、実際のPCによるデモでは、熱心に説明に聞き入る姿が見受けられました。



## 午後の部

### 「化学物質のリスク評価における現状と新たな流れ」



西川氏

国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験センター長の西川秋佳様に in silico や TTC (毒性学的概念の閾値) といった新しいリスク評価手法や概念を詳細にご紹介いただきました。さらに、新しい試験法として認証されるまでのプロセスについても解説していただきました。

### 「事業者の自主的リスク評価管理を支援する環境リスク評価ツールの開発」

産業技術総合研究所の林彬勲主任研究員からは、2010年から継続して研究を行った結果として7月に公開された「AIST MeRAM」についてご講演をいただき

ました。有害性評価に必要な約3980物質、13万の毒性データを内蔵しており、簡単な操作で目的、シナリオや精度に応じた多様な評価が可能なツールとして、今後は英語版の作成を進め、海外への展開も図っていくとの紹介がありました。

### 「事業者の自主管理に資する確率論を援用した人暴露評価モデルの開発」

大阪大学大学院工学研究科、東海明宏教授からは、作業現場で比較的容易に入手できる定性的なデータをスコア化し個人暴露量が確率論的に推定できるツール SWEEs (integrated Score-based Workplace Exposure Estimating System) を紹介していただきました。新LRIの成果として、会員企業を中心に実際に使用していただいておりますが、今後はPBPK (生理学的薬物動態) モデルと組み合わせることで、健康診断データを活用した暴露情報の充実も図っていく計画とのことでした。



岩本教授

最後に、LRI 顧問会議の議長をお願いしている東京工業大学資源化学研究所の岩本正和教授に、「世界標準化を目指して化学産業のグローバル化の基礎を作ることや将来発生する課題を見通して対策を打つことが重要になる」と、本研究報告会を総括していただきました。

今回の研究報告会は、全体で200名を超える来場者があり、盛況のうちに閉会することができました。会員企業の皆様をはじめ、来場いただいた多くの方々のご支援、ご協力に対し、誌面を借りて御礼申し上げます。事務局一同、LRIへの注目度、今後への期待を肌で感じる一日となりました。今後とも、社会全体の安全、安心につながる自主研究活動になるよう努力をしております。